

枕経のお知らせ

ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の寺務所へご連絡いただくようお願いしております。ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきます。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

トロント本願寺 理事会

祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 六月 七日(日)

七月 五日(日)

(日本語…午前十時四十五分から)

(英語…午前十一時から)

※英語法要のみオンライン配信

どうぞ祥月でない方も皆様ご参拝下さい。



初参式のお知らせ

初参式は、お子様が初めてお寺にお参りし、仏さまのご縁の中で健やかに成長していくことを願う大切なご縁です。ご家族そろって仏前に手を合わせ、お子様の歩みを温かく見守る時間となります。ぜひご参加ください。法要後は駐車場にてバーベキューもあります！

日時… 六月 二十一日(日) 日曜礼拝にて

申し込みについて詳しくは英語版ニュースレターにてご確認をお願いします。

お盆（盂蘭盆会）のお知らせ

日時… 七月 十一日(土)

午前中 お墓参り (英語版を参照)

午後七時より 盆踊り 日系文化会館

七月 十二日(日) 盂蘭盆会法要

午前九時 初盆法要 (日英)

午前十時半 日本語法要

午前十一時 英語法要

今年のお盆のゲストスピーカーは、アルバータ州レスブリッジ、南アルバータ仏教会よりローランド生田先生にお越しいただきます。

皆さんで一緒にお聴聞させていただきます。どうぞ。

キャンプ・ルンビニのお知らせ

今年の夏もワサガビーチにあるコテージにて、恒例仏教サマーキャンプが行われます。

日時… 七月二十六日(日) ～ 八月一日(土)

八歳未満のお子さまは、七月三十一日(金)に一日体験として参加いただけます。申し込みの詳細は英語版のニュースレターをご参照ください。



ボランティアの皆様へ

寺院内外に問わず、トロント本願寺の護持発展に対して、ご尽力くださるすべての方々に感謝を申し上げます。

合掌



モミジでの定例法要

(第2木曜日10時半～)

※昨年より午前中に変更

私自身、仏教に関わるようになる前の人生を思い出すことがあります。私は若い大学生で、人生について多くの疑問や迷いを抱えていました。もし誰も私に仏教を差し出してくれなかったなら、今の私の人生がどのようなものであったか、私には分かりません。ただ一つ分かっていることは、仏教が私に開かれていたからこそ、私は自分の精神的な生活を落ち着かせることができ、感謝と気づきを大切にする人間へと導かれていったということです。私が仏法との出遇いによって受けてきた恩恵を、すべて数え上げることはとてもできません。

私は、誰かに圧力をかけられたり、洗脳されたりして仏教に入ったわけではありません。そうではなく、親切な人々が、思いやりをもって仏教を一つの贈り物として私に差し出してくれました。私はそれを見つめ、考え、そして受けることを選びました。その人たちは、私にこの贈り物を届けるために、時間と労力を注いでくれました。そして、断られるかもしれない、失望するかもしれないという危険を引き受けてくれました。私はそのことに、深く感謝しています。

今も、多くの人々が、仏教という贈り物を、それによって支えられるかもしれない人々へ届けようと努力しています。私は、私たちの社会の中で苦しんでいる人々のために、さらに多くの人々がそのような活動に関わってくださることを願っています。

もちろん、ある人が今の時点では仏教そのもの

のを必要としないかと判断することもあるでしょう。すでにその人を支えている、よい信仰や精神的な道があるかもしれません。そのような場合には、仏教へ改宗させようとする必要はまったくありません。私たちは、別の形でその人の助けとなり、菩薩の精神を表していけばよいのです。

伝道が分断ではなく、布施の心、つまり惜しみなく差し出す心によって行われるならば、私たちは伝道活動を恐れる必要はありません。世界中の人々を仏教徒にする必要はありません。しかし、多くの人々にとって、仏教に少し触れること、あるいは深く学ぶことが、人生の助けとなる可能性があります。そして私たちが勇気をもって手助けしなければ、その人々には仏教に出遇う機会すら訪れないかもしれません。

六月はトロントのプライド月間です。そして、トロント仏教会は今年もプライドの活動に参加いたします。これは、私が申し上げている前向きな伝道活動の一つの形です。私たちがプライドに参加することで、何千人もの人々が仏教に出遇います。そして、その人々は、仏教が自分にとって意味のあるものか、役に立つものかを、自分自身で考えることができます。私たちのサンガのメンバーと出会い、私たちのコミュニティに参加するとはどういうことなのか、少し知る機会を得るのです。

その後、さらに関係を深めたいと思うか、それとも今自分を支えている道をそのまま大切にすることは、その人自身が決めることです。そこ

には圧力も期待もありません。そして、その過程で、プライドに参加する私たち自身も、多くの素晴らしく興味深い人々と出会います。その人々が自分自身として自由に生きる喜びを分かち合い、私たちは仏教の価値である包摂と慈悲を表すことができます。

このような伝道活動は、一方通行ではありません。私たちが何かを必要としている人々に届けるだけではありません。私たち自身もまた、その出遇いから大切なものを受け取っているのです。そして、私たち自身もその交流によって、よい影響を受けています。

過去のプライドで私たちのブースを訪れてくださった方々、そしてパレードで行進する私たちに声援を送ってくださった方々のことを思うと、私は本当にありがたく感じます。

私たちのお寺は、六月十六日から二十八日まで、プライドのストリートフェアにブースを出し、六月二十八日にはプライド・パレードに参加いたします。ご都合が合いましたら、ぜひプライドにご参加ください。本当に楽しい時間となることでしょう。そして、苦しみの多いこの社会の中で、私たちがどのように仏教を適切に他の人々へ差し出していくことができるのか、どうぞこれからも考え続けてください。関心を持つすべての人々と、仏法の美しさを分かち合ってくださいませう。

合掌

(橋本訳)

アシスタントミニスター ジェフ・ウイルソン

「法名」とは、“私が、仏さまの教えを聞きながら歩んでいく身である”、“私が仏さまのご縁の中を生きている”ということを表す名前です。

亡くなった後のために名づけられるのはありません。むしろ、“今を生きている私”に向けられた名前であると言えるかもしれません。

日々、迷ったり、悩んだりしながら生きていく私に対しても、阿弥陀さまは決して見捨てることなく、常に寄り添ってくださいます。その阿弥陀さまの願いを聞きながら生きていく身である、ということを変更して聞かせていただくのが、「法名」なのかもしれません。

レストランで使っている「カール」という名前は、私が自分で考えた、便利のための名前です。しかし、「法名」は、仏さまのご縁の中でいただく名前です。その名前を通して、「私は仏法を聞きながら生きていく身である」ということを、改めて味わわせていただくのであります。

アシスタントミニスター

杉浦輝

仏教は伝道する宗教でしょうか



私たちは普段、仏教を「伝道する宗教」とはあまり考えないかもしれません。実際、他の宗教の宣教師に出会ったことのある方も多いでしょうし、その中には、仏教徒より

もずっと積極的に、時には押しつけがましく感じられる方もいたかもしれません。

また、カナダにおける仏教は、これまで一般社会への働きかけを強く打ち出してきたわけはありません。それは、よき隣人であろうとする思いからでもあり、また過去に仏教徒やアジア系移民が深刻な偏見や差別を経験してきたことも関係しています。そのため、私たちが一般社会に対して、必ずしも積極的に外へ向かっていかなかったことには、理解できる理由があります。

しかし、歴史家として申し上げるならば、仏教は確かに「伝道する宗教」でもありました。そもそも、仏教はどのようにして北インドからこれほど遠くまで広がったのでしょうか。南はスリランカへ、東はペルシアへ、北はシベリアへ、そして西ではなく東へ進んで日本へと伝わりました。もちろん、その時代にはインターネットも新幹線もありませんでした。仏教がアジア各地へ、そして今日では世界中へ広がったのは、何世代にもわたる僧侶、尼僧、そして在家の人々の献身的な努力があったからです。

問題が生じるのは、「伝道」というものを、自分たちの宗教を他者に押しつけ、その人たちが大切にしてきた信仰や習慣を置き換えようとする行為として理解してしまう時です。実際、そのような形で私たちに関わってきたキリスト教や他の宗教の宣教師もいたことでしょう。しかし、それは仏教における伝道のあり方ではありません。

私たちが伝道の活動を行うのは、仏教がどれほど素晴らしい宗教であるかを証明するたものの精神を実現することだからです。

では、「伝道活動は仏教の実現である」とは、どういう意味でしょうか。仏教の精神とは、他者を助けることにあります。それは菩薩の道であり、他者に仕え、この世界の苦しみを少しでも軽くしようとする歩みです。

法蔵菩薩は、五劫という長い長い時間、すべてのいのちのために修行されました。そして、そのはたらきによって阿弥陀仏となられたのです。もちろん、私たちの誰も、そのような大きな努力をすることはできません。少なくとも私にはできません。しかし、過去の数えきれない菩薩方の姿を手本として、今日の私たちの生活の中に生かすことはできます。

私たちが仏教を他の人々と分かち合うべき理由は、仏教がその人々の助けになるかもしれないからです。この寺報を読んでくださっている皆さんも、仏教によって何かしら支えられ、助けられてきたのではないのでしょうか。もしそうであるならば、そのご恩に報いる一つの道として、仏教を必要としているかもしれない他の人々に、そっと差し出していくことは、とても大切なことです。

【次頁へ続く】

佛心

法名という名前



こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

すでに六月となりましたが、四月からトロント本願寺で活動

始めて二年目となりました。

二年目で変わったことといえば、皆さんもご存知の通り、私の妻が日本からトロントに来たことです。今思えば、約一年間、日本とトロントの遠距離で生活しておりました。

慣れない海外生活の中で、一人で生活していた頃と比べると、誰かと共に食事をし、日常を過ごせるということのありがたさを、改めて感じております。

これまでは一人分の食材を買って、冷蔵庫に入れていました。最近、冷蔵庫の中身が急にぎやかになりました。一人暮らしの時には見かけなかった野菜やパンが増えております。そして、不思議なことに、減っていくスピードもとても早いです。とにかく、私にとっても彼女にとっても、新たな環境での生活が始まっています。うまく乗り越えていければと思っております。

二〇二六年六月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

さて、私はカナダでの生活も二年目になりましたが、今でも英語で話すことの難しさを感じる毎日です。

最近、レストランやカフェなどで名前を尋ねられることがあります。私は「ヒカル」と伝えるのですが、なかなかうまく伝わりません。しまいには、「ヒジャ」や「ホール」など、まったく違う名前と呼ばれてしまいます。

そこで私は、自分の英語の名前を勝手につけました。最近「カール」と言っています。

「ひかる」から「かーる」、そして「カール」という、少し強引な変化ですが、店員さんも呼んでくれます。

名前というのは、単に呼びやすくするためだけのものではありません。親が子どもに名前をつける時には、「こんな人になってほしい」「幸せな人生を送ってほしい」など、その名前には「願い」が込められていることでしょう。

浄土真宗では、「法名」という名前をいただきます。カナダでは大抵、人が亡くなった時に、その方の「法名」が名づけられます。そして、ご家族やご親戚に「法名プレゼンテーション」としてご紹介いたします。

そのため、「法名」は亡くなった後につけられるものであり、お浄土という世界の住人としての名前であると思われがちです。しかし、本

来、「法名」は単なる別名ではありません。

浄土真宗の「法名」は、必ず「釋○○」という形になります。「釋」という字は、お釈迦さまに由来するものであり、「仏弟子」として、仏さまの教えを聞きながら生きていく」ということを表します。

つまり「法名」とは、仏さまのご縁をいただき、仏教の教えを聞いて生きていく“仏弟子”であるということを表す名前です。よく他宗派で「戒名」と呼ばれる、似たものもあります。「戒名」は、戒律、つまり宗教上のルールを受けて、出家修行する人に与えられる名前です。

一方で、浄土真宗は、自力の修行を行う教えではありません。阿弥陀さまの願いによって、私が救われていく教えであります。そのため、「戒名」ではなく「法名」と呼びます。もちろん、実際に法名を考えるのは、私たち僧侶です。そのお方その方のお名前や、お人柄、ご家族の想いなどを聞きながら、「どのような法名がよいだろうか」と、誠心誠意考えています。

ですから、「法名」は特別な力によって突然与えられるような、不思議な名前ではありません。だからといって、単なるニックネームや飾りの名前でもありません。

【次頁へ続く】